彼女

パ
チッ
もう朝だよ
おはよう郁也
朝目が覚めると有明夏穂がいた
お…はよ…ぉ

「ページ数を感じさせない構成のうまさ、
好感の持てるキャラクター。
この作品に出会えたことに感謝します」

選考員・藤島康介氏も心を揺さぶられた56ページ。

アフタヌーン四季賞2013年冬のコンテスト
四季大賞受賞作

彼女（かのじょ）

はかなく優しい瞬間をとらえる才能、初投稿の23歳。

木下美菜子（きのしたみなこ）

大切な人と一緒にいたい。それが、拒み続けることと同義であっても。

ミーンミーン

ひどく
体がだるい
頭も重い
ふつか酔い
みたいだ……

昨日そんなに
飲んだだろうか？

そもそも昨日は
何をしていたっけ？

はい!!
朝ごはん!!

残さず
食べてね〜〜〜♪
ドンドーン
……

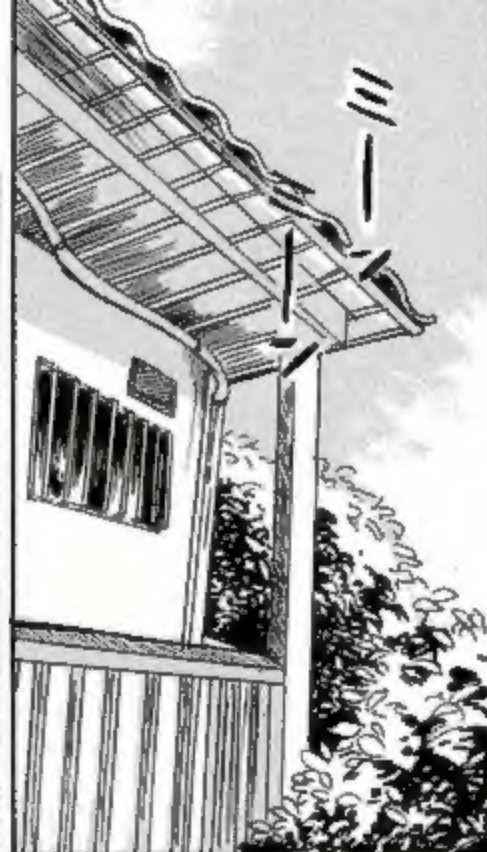
多すぎじゃない？
何
言ってるの!!
ドボボ

君 最近 カップ麺ばかり食べてたでしょ
駄目だよ バランスよく栄養ある物 食べないと!!

全部 食べないと
栄養失調で死んじゃうんだから!!
ゴゴゴゴ

そう言われると本当にそうなってしまう気がする
死んじゃうんだから!!!
いただきます……
どうぞ!!

もくもく
ん おいひい

早く食べないと遅刻しちゃうよ
どこか行くの?
何言ってるの 君が行くんだよ
大学

そうか
僕は
大学生だった

彼女は何かと僕の面倒をみてくれた
夏穂は
僕にとって神様だった
でも僕が団地での生活に慣れた頃 夏穂は遠いどこかへ引っ越してしまった
そして10年後……
ピロリロ♪
いらっしゃいませー

あっ!!
東京の大学に受かり上京した僕は彼女と再会した
いいよ夏穂そこまでしなくても
じゅわっ
夏穂は子供の頃のまま変わっていなかった
いいのいいの好きでやってるんだから
それに君ほっといたらカップラーメンばかり食べるじゃない
はい!! 残さず食べてね——!!
彼女は相変わらず
僕の神様だった

僕と夏穂の関係は
家族のようで
友達のような
恋人のような

その曖昧さが
僕には心地よくて……

なにより
すぐそばに
夏穂がいてくれる
それだけで幸せだった

ガヤ
ガヤ

ダダダダダ

郁也ーー!!

ドカッ

ぶふぅ!!

きゅっ

痛いよ
ナルちゃん……
どうしたのじゃねぇ――よ!!
お前のほうこそどうしたんだよ!!
心配したんだぞ!!
1ヵ月も大学休んでよぉ!!
電話番号知らねぇし
住所もわかんねぇし どっかで
死んじまったんじゃないかと
ひやひやしたぜ!!
ぎゅ――!!
うわっ!!
だばーー
ど どうしたの……?
1ヵ月 大学を
休んだ……?
ナルちゃん
ちょっと
離れて……!!
ダダダダダ
郁也さん!!
ぷふ

ゆ 結衣菜ちゃん……

イテテ
ち 違うんです!! 違うんです!!
何が違うんだろ？

ひってーな結衣菜 突き飛ばす事ねーだろ
あれ鳴海さん いたんですか
うわ ひってー!! それとナルちゃんって呼べよ

そんな事より 郁也さん もう大丈夫なんですか？
ずっと 来てなかったから 心配していたんですよ

ナルちゃんも 結衣菜ちゃんも 何言ってるんだよ
僕が1ヵ月も休んだ？
そんなわけないよ 昨日だって……

あれ……？

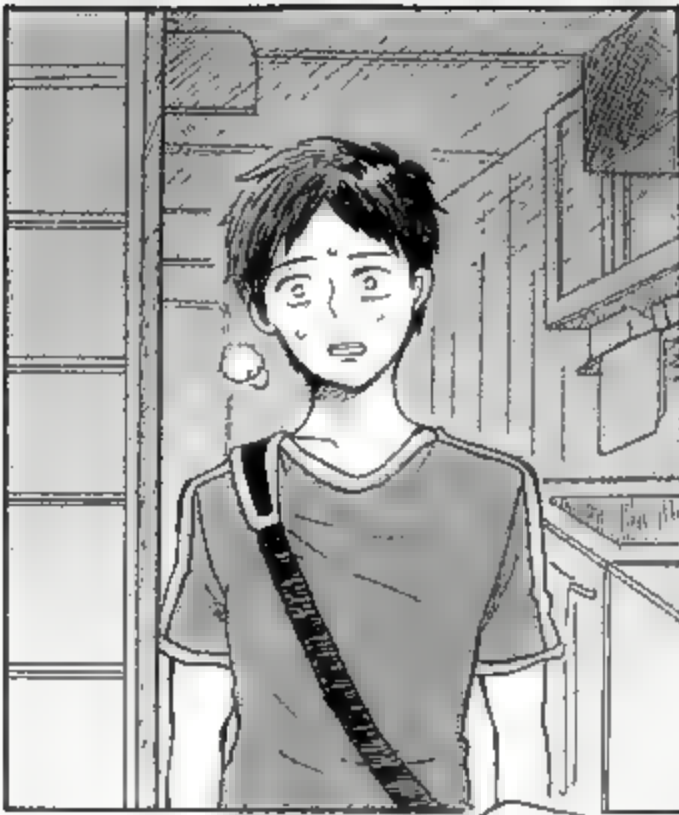
昨日 ？
あれ？
ザ
ザザザ
僕は何をっ
ゴボ
ゴボ
おかしい
思い出せない
おおい 大丈夫かよ
うっ……
あんな事が あった後だから 無理もねぇけど……
あんな事っ
あんな事 って

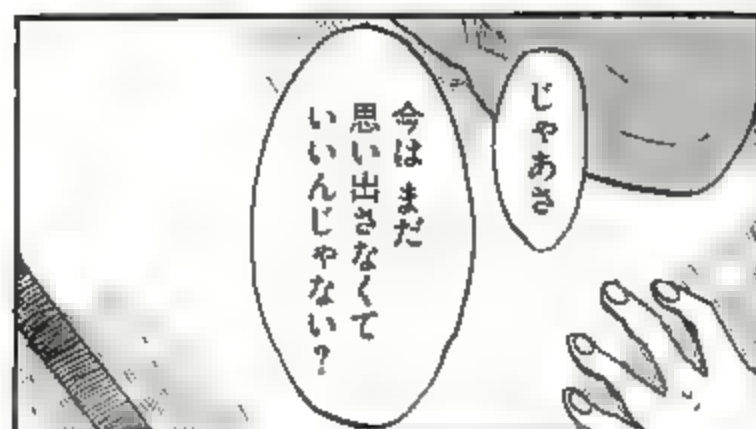
ズキーン
うっ……!!
なんだ
なんなんだ一体
大丈夫ですか?
頭が痛い
体がだるい
おい!! 郁也
苦しい 苦しい
誰か助けて
帰ろう
夏穂のもとに
夏穂なら
救ってくれる

夏穂

僕を
救ってくれ

あれ？早かったね

夏穂……

僕は今広い海の真ん中にいるんだ
そしてその海の底には僕の記憶がたくさん沈んでる
どんな記憶？
ミーン
ミーン
わからない だから記憶を掴むために海に潜ろうとするんだけど
その海は暗くて息苦しくて またすぐに元の状態に戻ってしまう
つまり？

つまり僕は今
不安定なんだ
変なんだよ
昨日どころか
ここ最近の事が
思い出せない
僕はどこで何を
しようとしていた？
それを思い出そうと
すると苦しいのね
じゃあさ
今は まだ
思い出さなくて
いいんじゃない？
え……？
海に潜るなら
準備体操をしなくちゃ
溺れちゃうでしょ
君は今
準備体操期間なの
だから潜っちゃダメだよ

そうか

そう…なのかな……？

準備体操期間か

別にここ最近の記憶がなくたって死ぬわけじゃない

ザザン

夏穂がいる

充分じゃないか

もう大丈夫？

うん ごめん

17

なぁに こんなに蜜柑買ってきて カップラーメンの次は蜜柑？

え？ あれ？ いつの間に？

君は本当に面白いね

蜜柑だけじゃご飯は作れません

おつかい行ってきて

「働かざる者食うべからず」よ

鳴海君と結衣菜ちゃん？

君のサークルの友達でしょ えっと何のサークルだったっけ？

天文部

そうそう4人でプラネタリウム見に行った事あったね

君 最後まで爆睡してたけど

……

鳴海君は中学の頃の友達で 大学で偶然再会して同じサークルに入ったんだよね

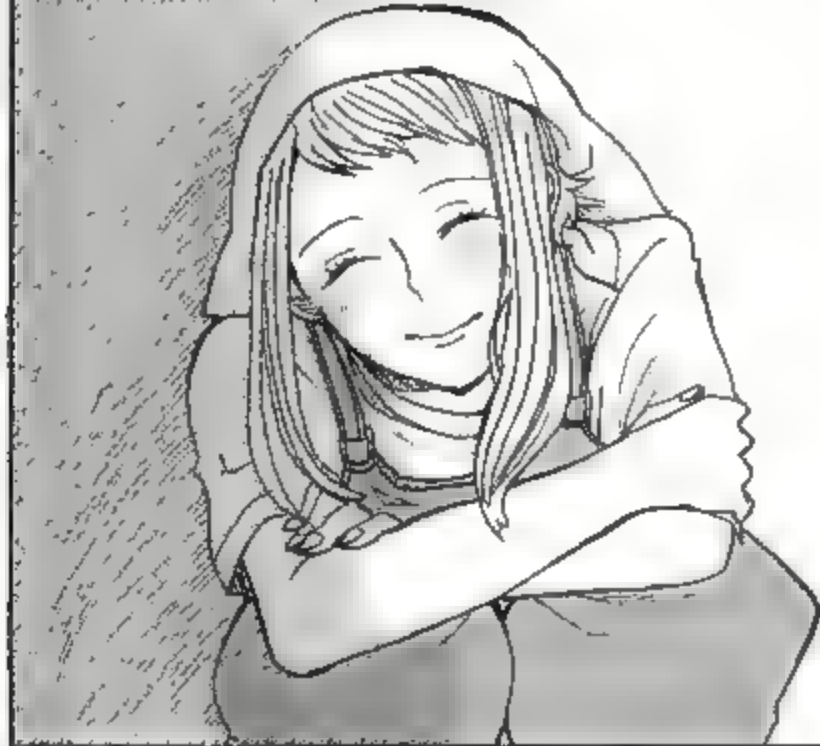
感動の再会

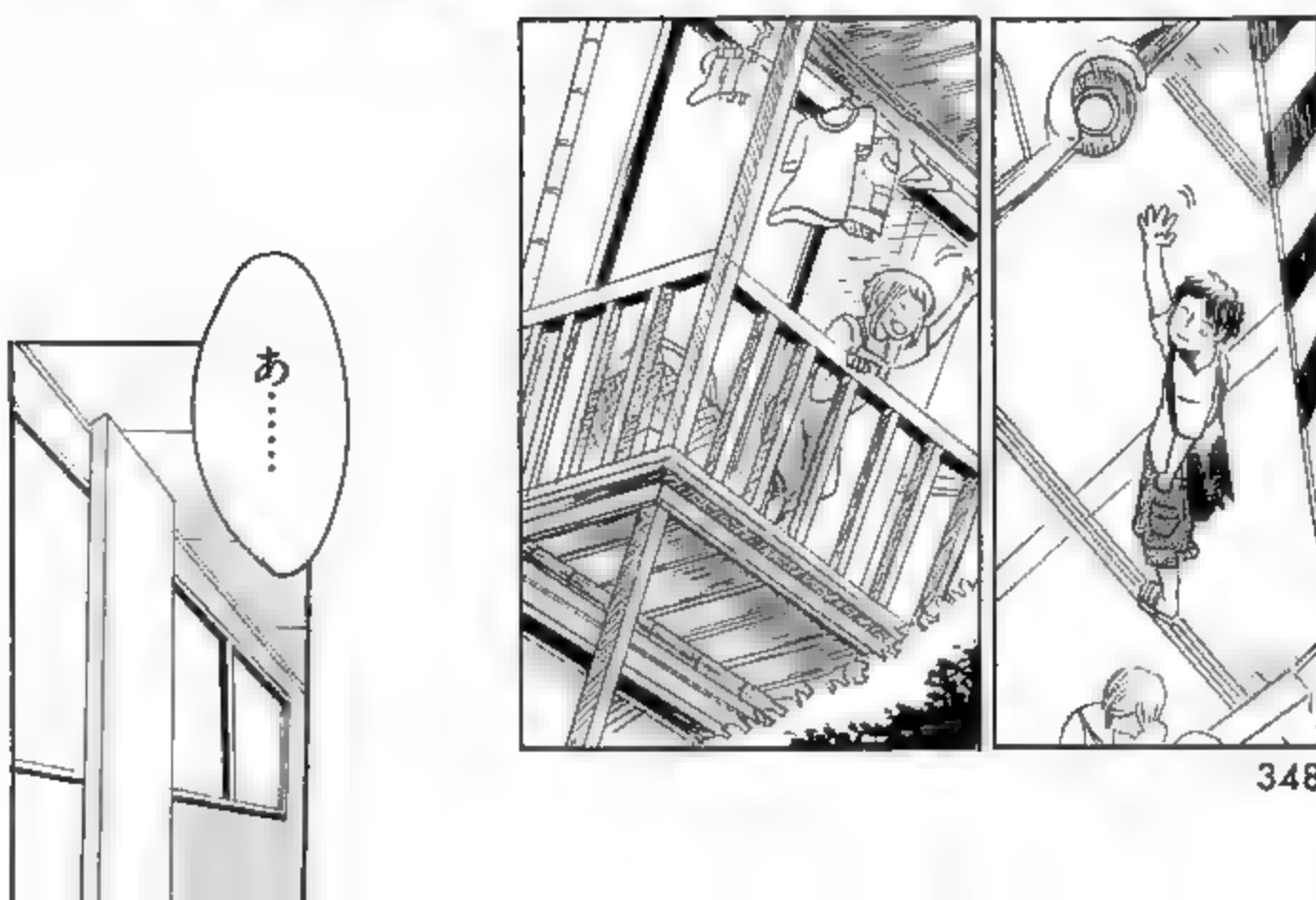
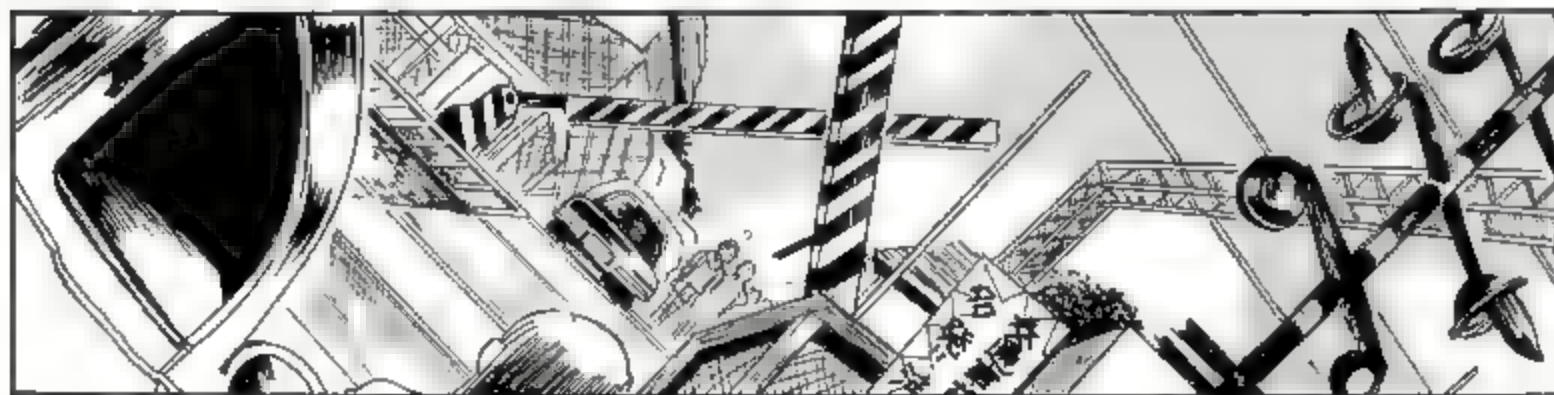
翌日

無理矢理入らされたんだよ サークルとか興味なかったのに……

結衣菜ちゃんは君達より1コ下だったね

君に憧れて天文部に入ったんだっけ？

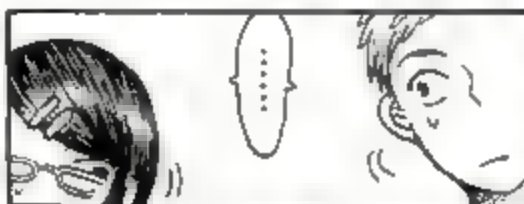
ただオープンキャンパスのとき迷子になってたから道案内しただけだったんだけどなぁ

最近 会ってないな 二人とも元気にしてた？
相変わらずだよ ナルちゃんはスキンシップ激しいし 結衣菜ちゃんは挙動不審だし
でも いい子達だよ
人付き合いが苦手で 人間不信の君と一緒に いられる子なんて そうそういないよ
ひどいや……
だから大切に しなくちゃ だめだよ
今日 大学 途中で抜け出した んでしょ
君の無断欠席 無断早退は悪い癖だよ
鳴海君も結衣菜ちゃんも 心配してるんじゃない？
君はちょっと抜けた ところがあるから 一人にするのが心配だよ
鳴海君と 結衣菜ちゃんがいれば 安心だけど
19

僕はきっと
君さえいれば
生きていけるよ

彼女

アフタヌーン四季賞 2013年
冬のコンテスト 四季大賞受賞作

作者近況

木下美菜子

ドキドキとハラハラで頭の中が荒波状態ですけど、大好きな作家さん達と肩を並べることができる今この瞬間が、ただただ幸せです。

21

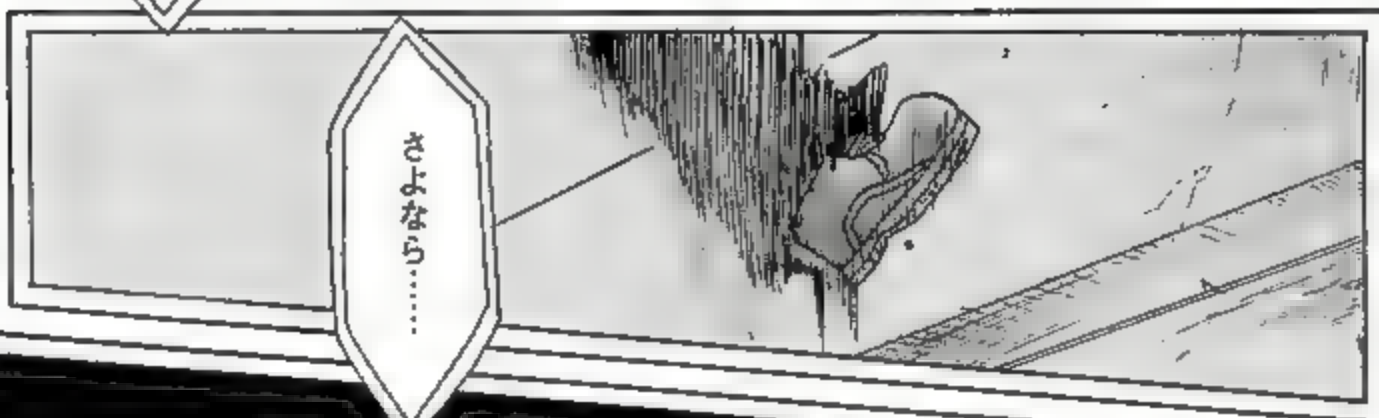
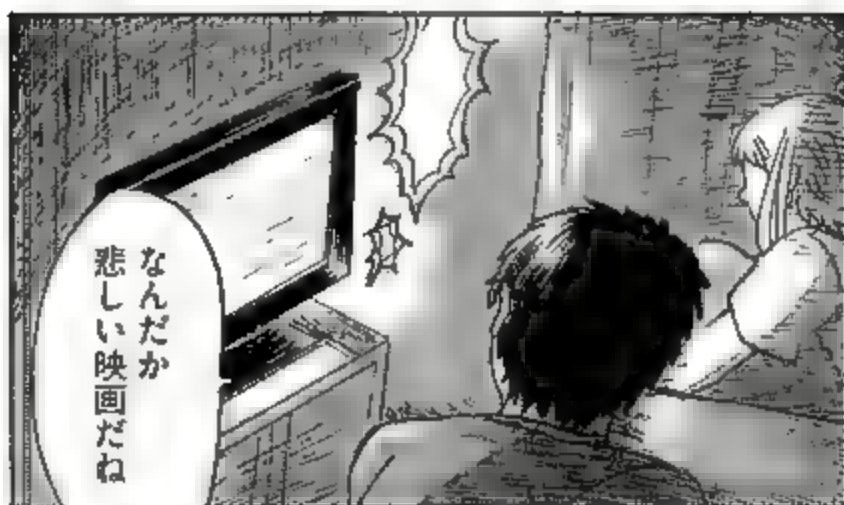
一体
なんなんだ
……?
ゴポ
ミーン
ミーン
ゴポ
……や!!
ゆ――や!!
おい!!
おいってば!!

こらぁ!!
郁也!!
うわ!!
びっくりしたー
びっくりしたー じゃねぇよ 何さっさと 帰ろうとしてん だ!!
久々に3人で 星見に行こうぜ!!
いい場所が あんだよ!!
あ〜〜〜ごめん 用事あるから二人で 行ってきなよ
なにぃ〜〜〜? 用事ってなんだよ
おつかい頼まれてるんだ それに彼女が待ってるし
また今度ね
たったっ
……
あれ? 郁也さんは?
ぜぇ ぜぇ
鳴海さん速すぎ…
……彼女?

ゴトンゴトン
僕は一体何を忘れているんだろう…
それにナルちゃんが言っていた「あんな事」って……？
ザザーッ
うっ……

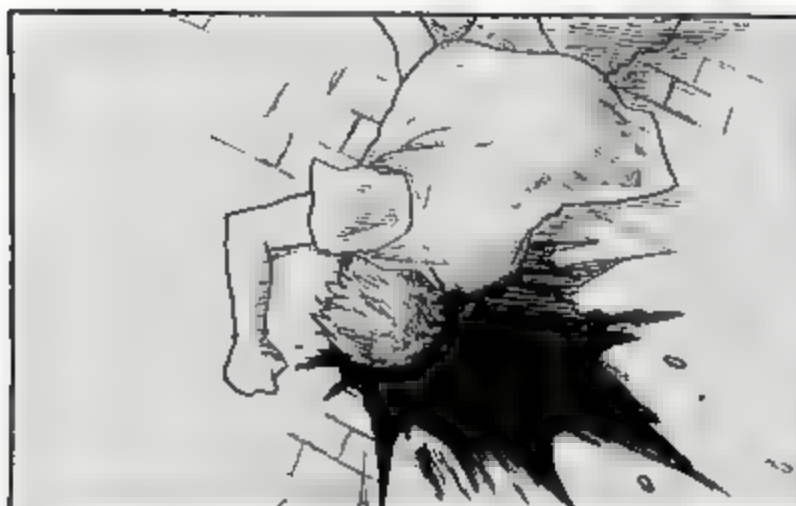
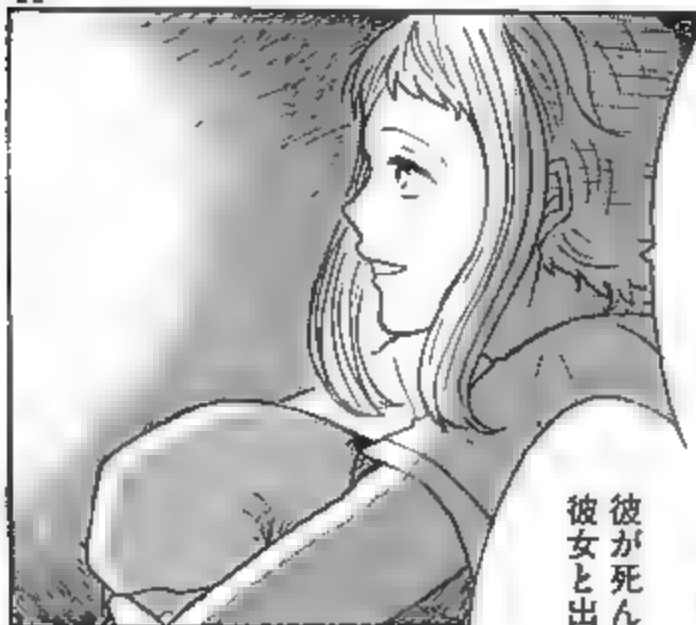
おいっやめろ!!

先生……彼女が死んだんです

オレやっぱり彼女のいない世界で生きていく事はできない……

さよなら……

なんだか
悲しい映画だね
そう？

でも彼と彼女は
今も一緒よ

26

？
天国で
って事かな？

彼と彼女が出会い
愛し合った時間があったなら
それは今も存在しているわ
彼が死んだ「今」
彼女と出会っているの

夏穂は たまに
不思議な事を
言う

よく わからないよ
タイムトラベルってわかる?
タイムマシンに乗って過去とか未来に行くヤツ? マンガとか映画の話でしょ
例えば「今」を生きる君がタイムトラベルして「過去」に行ったなら そこにもう一人の君がいる
君にとっては そこが「過去」でもそこにいるもう一人の君にとっては そこが「今」なの
なんだか難しい話だね
つまりは過去・現在・未来 無限個の君が 今この瞬間を生きてるって事
過去も現在も未来も共に流れているのよ

なんだか
わかるようで
わからない話だ
じゃあ彼は
幸せなのかな?
幸せよ
ミーン
ミーン
郁也さん
あけましておめでとうございます
ございました~
結衣菜ちゃん
こんにちは
キィ
明日から
夏休みですね

郁也さんは何か予定ありますか？
ん〜〜まだなんとも……

ももしも…よかったらなんですけど…
りょ旅行とか行きませんか？
えっ……
あ二人でとかじゃなくて郁也さんと鳴海さんと私の3人でっ

キィ
キィ
う〜〜ん
旅行かぁ そういえば夏穂と旅行とか行った事なかったなぁ、
映画観に行ったりご飯食べに行くのでもいいんですけど……えっと……

夏穂どこか行きたい所あるかな〜〜〜
あの……

私……郁也さんの力になりたいんです

え？
オープンキャンパスで
迷子になったとき 郁也さんが
声をかけてくれて すごく
うれしかったんです
男の人に あんなに
やさしくしてもらったの
はじめてで……

最近 郁也さん
いつもぼんやりしてて
授業終わったら
すぐに帰っちゃうし
あんな事が
あった後だから
しようがないんですけど
でも私
心配で…

また
「あんな事」
でですからね
ズキズキ

一人でいると
いろいろ考えちゃう
と思うので
誰かと一緒に
おいしいもの食べに
行ったり遊びに
行くのもいいんじゃない
かなって……
だから あの……
ええと ええと
ああ…
頭が痛い
キイ

郁也さん……？
ここにいたら
ダメだ…
早く帰らないと

ごめん
帰らないと
旅行の事
考えとくから

あ あの…
夏穂が
待ってるんだ

夏穂のいる
あの部屋へ

早く早く……——

ナツホサンハ　シンダンデスヨ

2ヵ月前……
交通事故で……

耳障りな音が蘇る
微かに
されど確実に
カン
カン
カン

!!

だめだ
嫌だ!!

行きたくない

あれ 蜜柑なくなってる
あ ごめん さっき食べちゃった
えーー!!
もう君は買い物行かないくせに なんでもすぐ食べちゃうんだから
ごめんごめん
ちょっと買ってくるよ
しょうがないなぁ

有明夏穂は
死んだんだ

踏み切りに
突っ込んできた
車にはねられて

宙を舞い

地面に
たたきつけ
られて

彼女は
死んだんだ

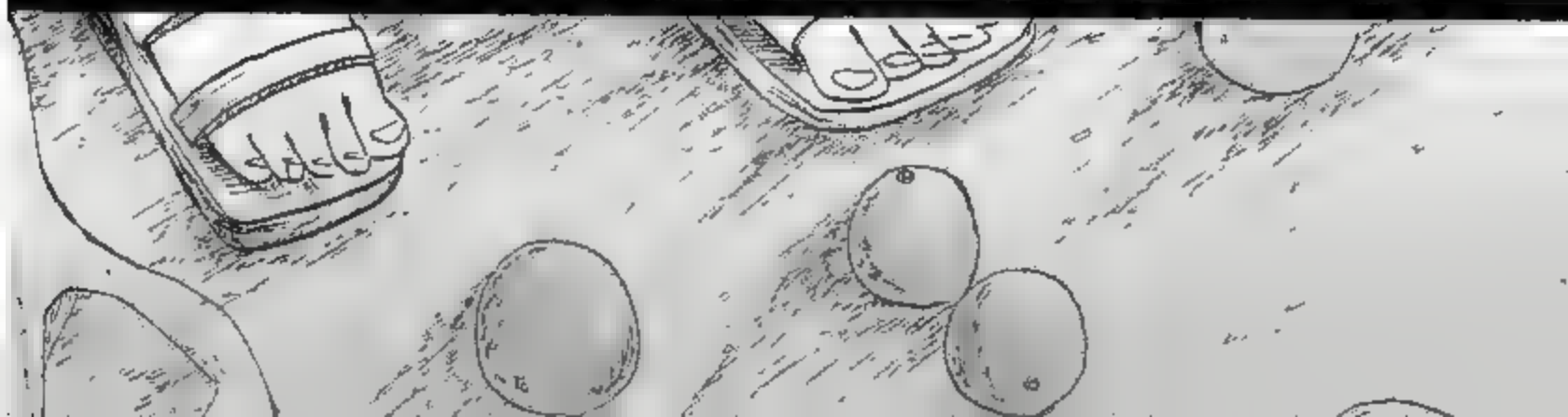
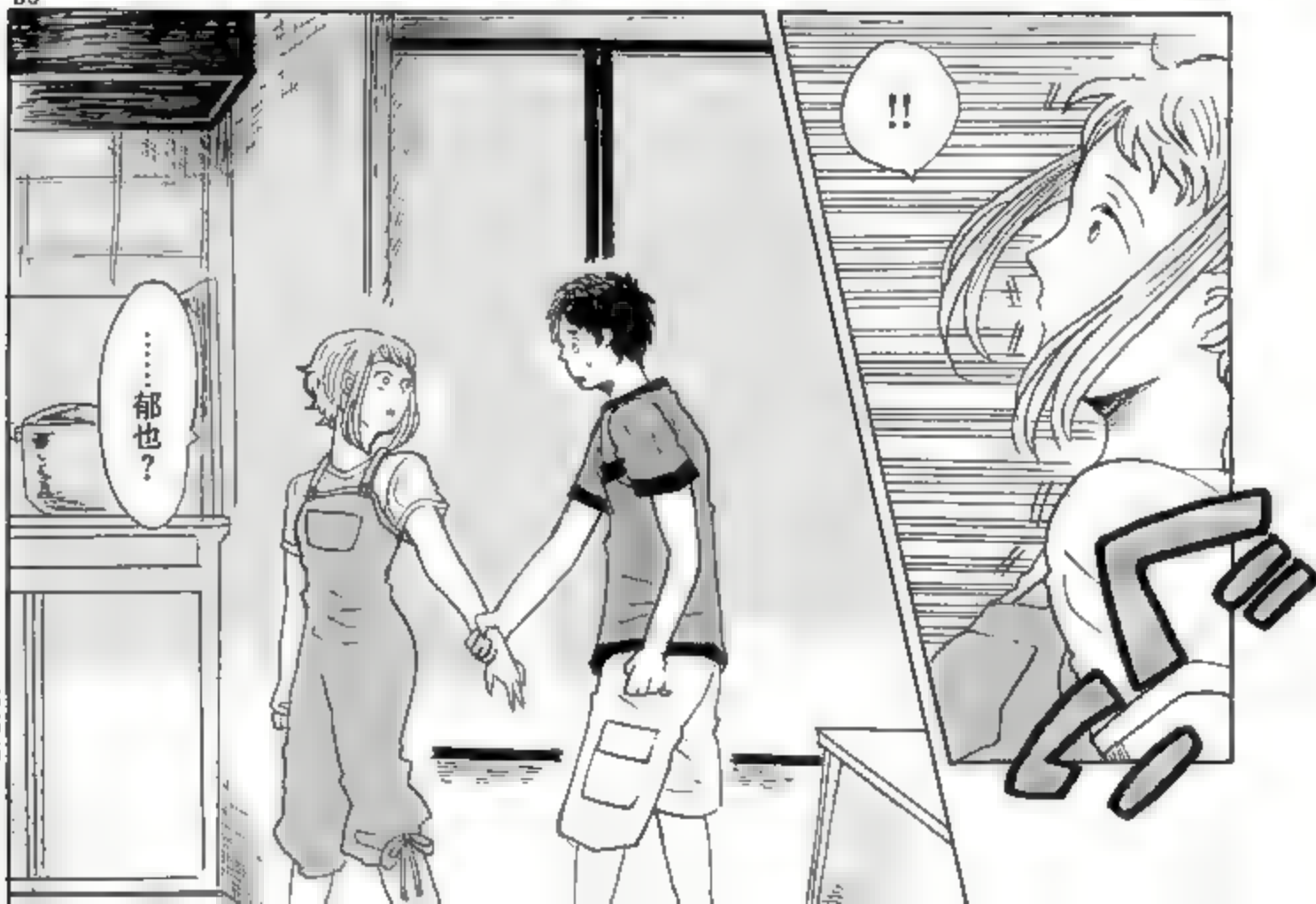
あ
おかえりー

遅かったね
おなかすいたでしょ?

すぐご飯にするから
座って待ってて・・・

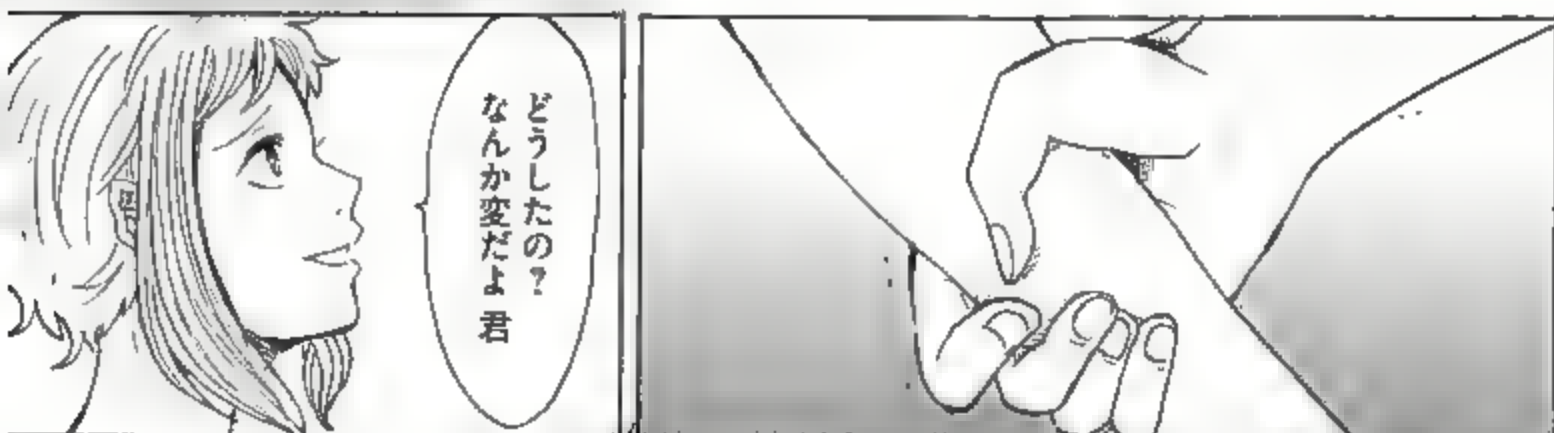
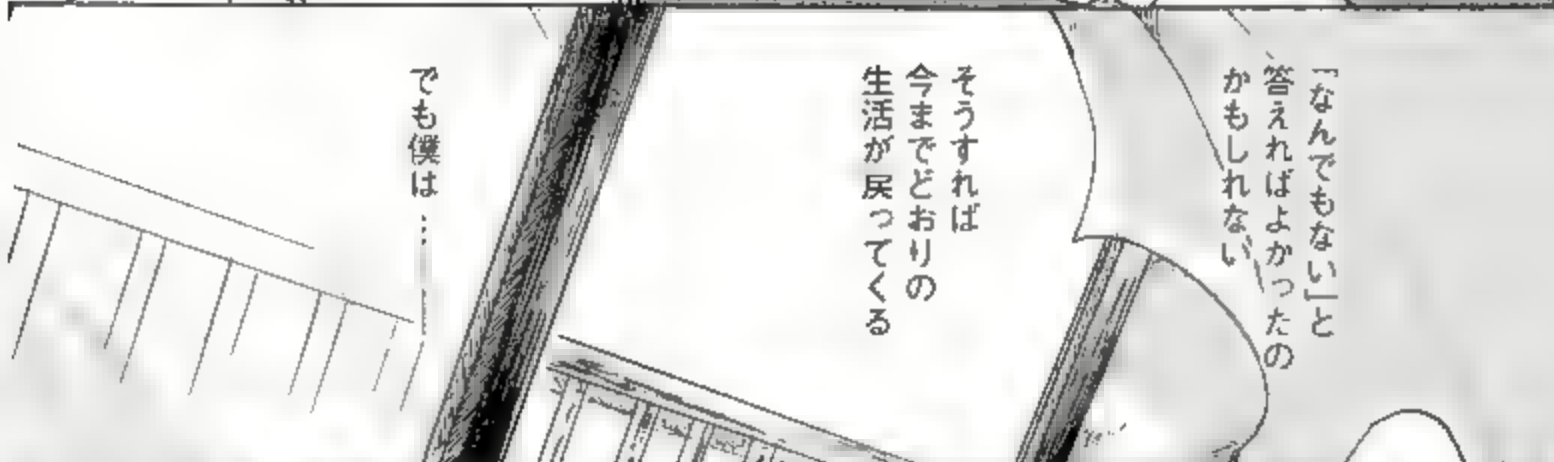
パタパタ

!!

……郁也?

どうして気付かなかったんだろう

1ヵ月前の朝この部屋で目を覚ましたときから

彼女が同じ服を着ている事

彼女の手がおそろしく冷たい事を

どうしたの？なんか変だよ 君

「なんでもない」と答えればよかったのかもしれない

そうすれば今までどおりの生活が戻ってくる

でも僕は…

夏穂 君は死んだ

死んだんだよ

そこまで強くはなかったから

ぷ

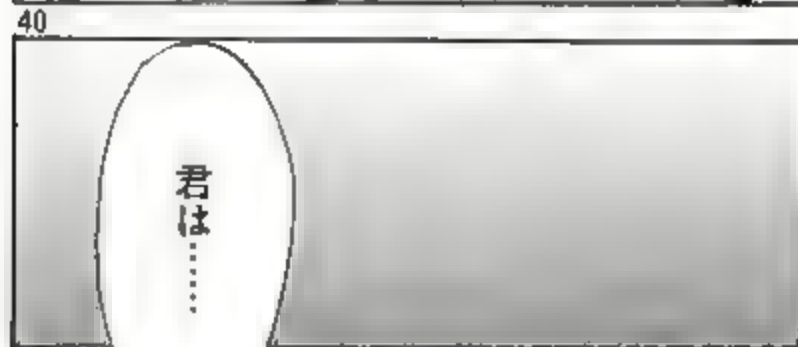
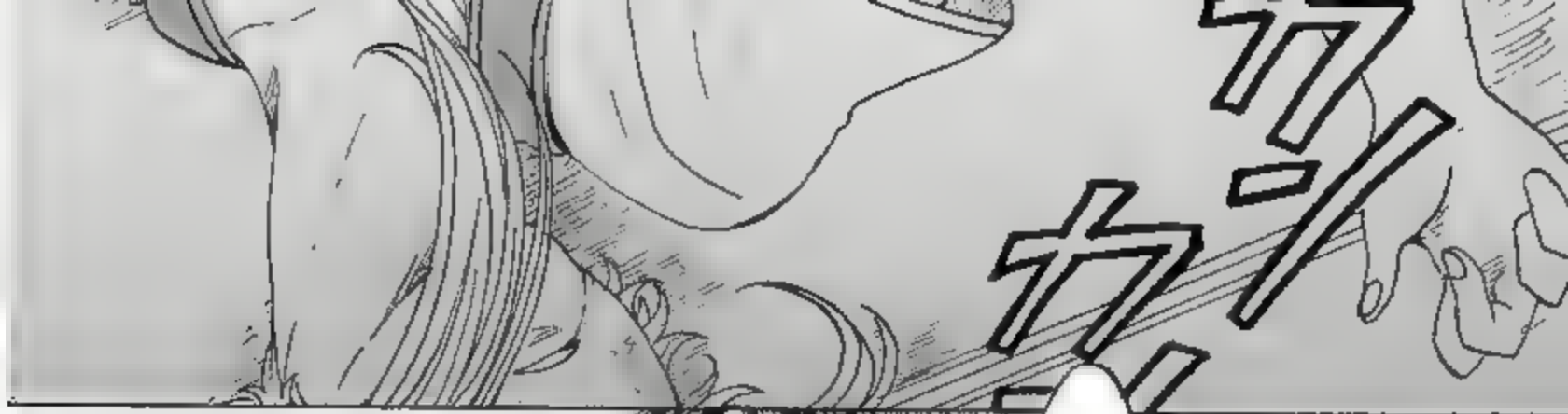
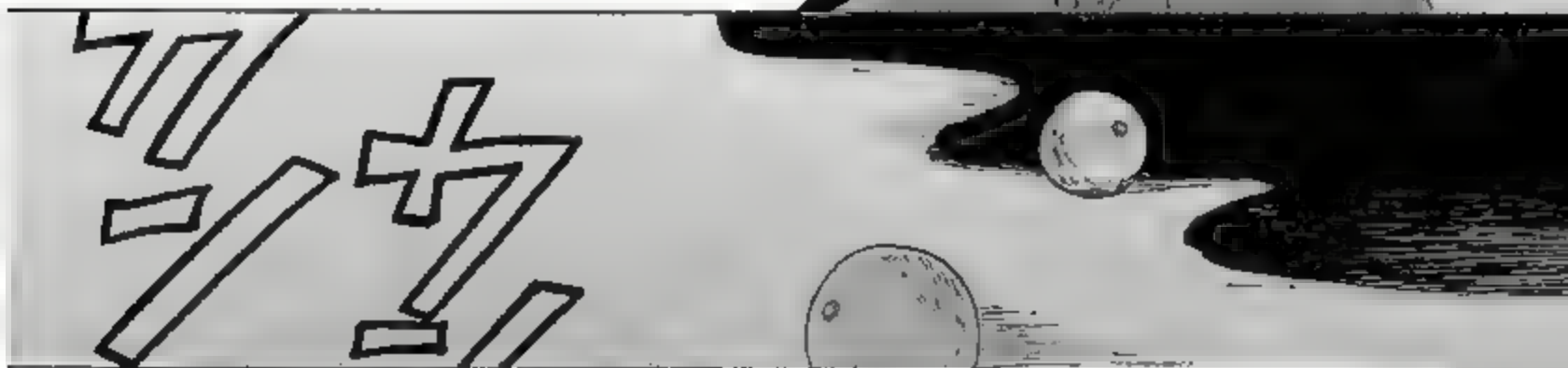
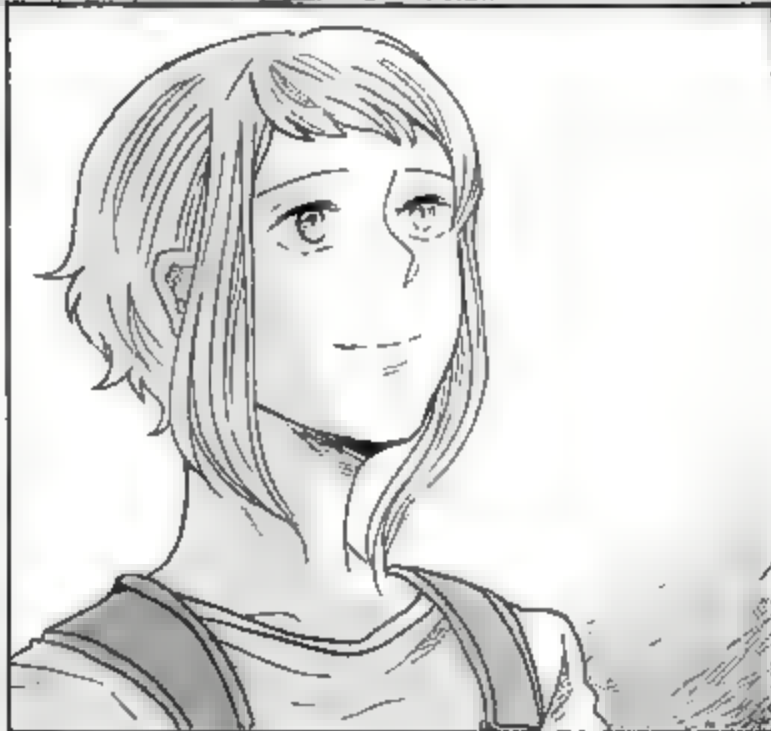
ふふ

あはははは!!

な 夏穂?

君ってば気付くの遅すぎ!!

ふつう幽霊が来たら驚くもんだよ

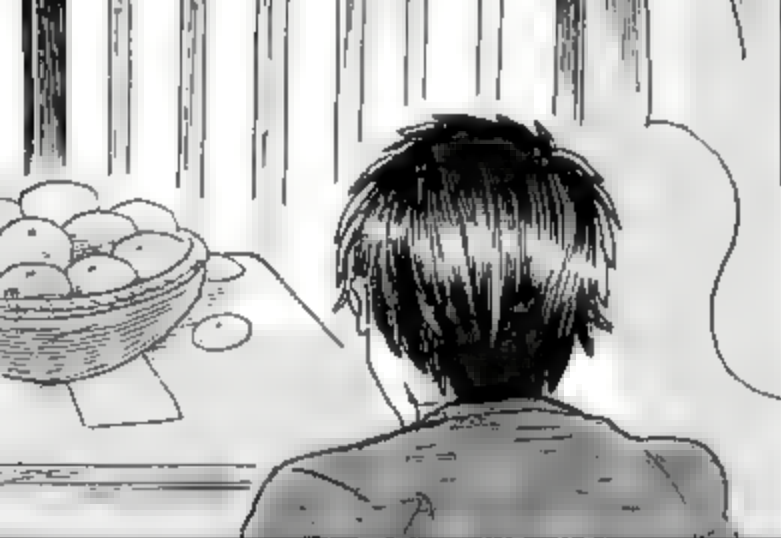
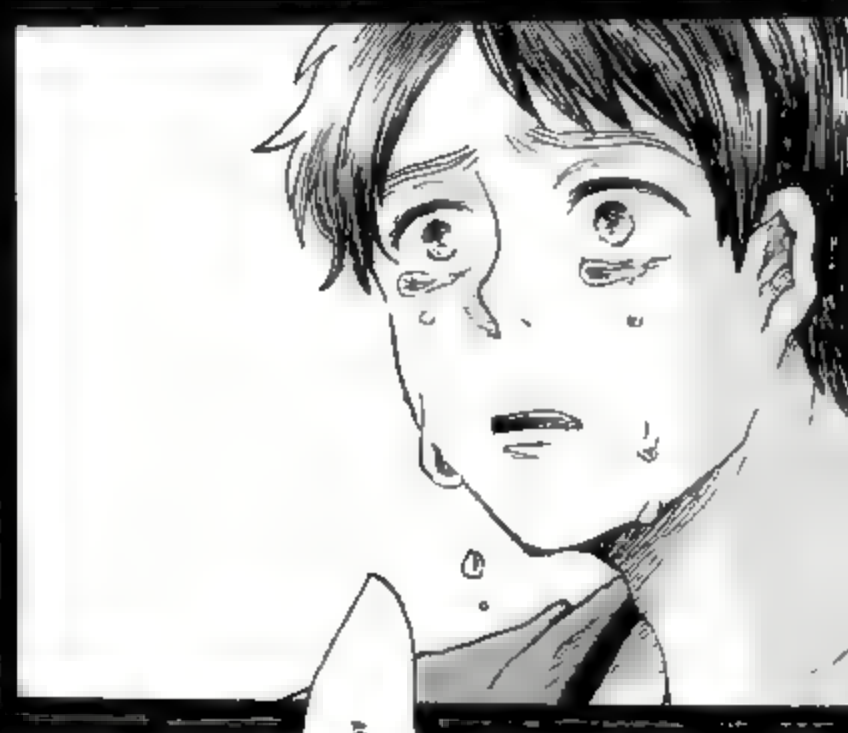
君は……

君は……
本当に死んでしまったんだね
やっと泣いてくれたね

え……？
私が死んだとき君泣かなかったんだよ
ずっと泣いてくれなかった
お葬式にも来てくれなかったし
私って君の中でそんなちっぽけな存在だったんだなあって悔しくなっちゃった
違う…
違うんだ
夏穂が死んだなんてそんなのはウソでこれは悪夢なんだと
僕は逃げたんだ泥のように眠り続け…
君の死を海底に沈めた

だから枕元に立って
恨み言のひとつでも
言ってやろうと
思ったの
そしたらさ
私以上に君のほうが
死んだ顔してるん
だもの
私がびっくり
しちゃったよ
はは……
そんな理由で
死んだ後まで
僕の所に来たの？
君は本当に
変わってるね
あら
そんな理由とは
失礼ね
私にとっては
充分すぎる理由よ
!?
スゥ。
このまま……
ずっと一緒には
いられないんだね……

ごめんなさい
ああ 彼女が行ってしまう
もっと早く本当の事を言わなきゃいけないってわかってたの
でも君との時間がなつかしくて楽しかったの……
てのひらからこぼれおちるように
謝らなくちゃいけないのは僕のほうだよ……
いつもいつも君に頼ってばかりで……
何か何か言わなくちゃ
君が死んだのだって僕のせいで……
ごめんなさい？
ありがとう？
僕はけっきょく君になにも……
行かないで？
何か 何か
……そう思ってるのは君だけかもよ
え……？
まず私が死んだのは君のせいじゃないよ
死は誰にでも来るものなんだから遅いか早いかだけよ

彼女

知ること、そして
理解すること――。

ガクッ
僕は大声で泣き続けた
うっ……
うう……
うあああ……

晩ご飯、冷蔵庫のなかに入ってます。ちゃんと食べてね！
食べるってことは、生きることなんだから。
彼女の死を受け入れるために
彼女が存在していた事を証明するために

ただ 大声で
泣き続けた

うん 今電車
降りたところ

夏穂の墓参りが
終わった後だから

バスで夕方頃
そっちに着くよ

りょーかいっ

しかし意外だなぁ
郁也が携帯もつ
なんて

えっ・

昔っから俺がいくら買えって言っても「メールが面倒臭い」だの「持ってても使わない」だの言ってたのにさ
バイト始めたからね
ははっ
それに……
人とのつながりを消しちゃいけないって思ったんだ
？なんだそりゃ
それより毎日毎日メールしてくるのやめてよ
いちいち返すの面倒臭いんだから!!
俺なりの「愛」だよ「愛」
ありがたく受け取れ
まぁ冗談はさておいて
俺も結衣菜もお前の事心配なんだよ
夏穂ちゃんみたいにうまくできないかもしれねぇけど
本当つらいときは頼ってくれよ友達なんだから
うん……ありがとう……

つ――か郁也
頼むから早く来いよ
ブツブツブツ
私がいけないんだわ…あんなタイミングで郁也さんに声をかけたから…どうして私っていつもこうなのかしら…こんな私な
オレンジジュース
最近 結衣菜まで 変になっちまって 二人じゃ 葬式みたいな 空気になってん だよ
ううん…… わかったよ
そういえば あのとき結衣菜ちゃん ほっといて帰ったんだった

ジャリ

ギュッ…

カン
カン
カン

彼が死んだ「今」
彼と彼女は
出会っているのよ

頬をつたうのは、あふれだした心――小学生のあの日とは違う涙。

「今」僕と夏穂は出会ったんだ

彼女

木下美菜子氏の次作にご期待ください。

終